

総工費 2520億円 完成19年5月

新国立文科相「高い」

二〇二〇年東京五輪・パラリンピック大会の主会場となる新国立競技場（東京都新宿区）の建設で、下村博文文部科学相は二十九日、総工費の二千五百二十億円について「予定よりやはり高い。国民に協力してもらおう工夫を考える必要がある」と述べ、命名権（ネーミングライツ）の販売や寄付など民間資金で二百億円程度を確保したい考えを示した。ただ調達の見通しは不透明で、財源確保が大きな課題になる。―関連①面

「ツ振興くじ」「toto」の売り上げの5%、日本スポーツ振興センター（JSC）が選手強化などに使う「スポーツ振興基金」の政府出資分の一部など。七月上旬にも文科省が都にあらためて負担を求める約五百億円と、民間資金二百億円を加えても、千六百億円程度しかない。

下村氏は二十九日、「できるだけ国費での負担が増えないようにしたい」と述べ、totoの売り上げ充当分の5%から10%への引き上げや、命名権の販売や寄付で賄う方針を示した。

多額の寄付をしてくれた人のネームプレートも、競技場の壁面に設置することなども検討するといふ。

この日の大会組織委員会の関係機関トップによる会議で、下村氏は新国立の総工費を、基本設計時の千六

「総工費2520億円で契約へ ※イメージ図はJSC提供

百二十五億円を約九百億円上回る二千五百二十億円とする計画見直し案を報告。

ラグビーワールドカップ（W杯）の開催半年前に当たる一九年三月を目指していた完成予定を、同年五月末

に遅らせることも伝えた。都の負担に関する具体的な話は出なかったが、出席した舛添要一都知事は会議後、「都民が納得できる説明はまだないので、これからの議論になる」と述べた。

「原案にこだわらぬあまり、軌道修正できなかった。それが問題をこじらせた要因だ。」

総工費二千五百二十億円は過去の五輪の主会場と比べても突出し、下村博文文科相自身「予定より高い」と認める。今後の物価上昇で建設費がさらに膨らむ可能性もある。

下村氏は原案を押し通す

意匠固執問題こじらす

理由を「ラグビーW杯に間に合わない」「デザインの変更は招致の際の国際公約に反する」とした。だが、完成予定は当初より二カ月遅くなり、W杯に間に合わない恐れも出てきた。「エコな五輪」を掲げる国際オリンピック委員会は既存施設の最大限活用を求めており、これまでの五輪を見ても計画変更には寛容だ。

これまでの取材を通じ、現計画に多くの問題があることは国側も分かっている、と感ずる。そうであるなら、いまからでも議論を尽くすべきだ。たとえばW杯を別の会場で行うことにすれば、まだ時間はある。

新競技場は「新しい日本の象徴に」と国家プロジェクトで進められてきた。今の姿はその言葉に見合うのか。一貫して見直しを求めてきた建築家の槇文彦氏は「ここまで来たら政治決断だ」と話す。国民が心から歓迎できる競技場となるよう、英断を求めたい。

文部科学省が検討する新国立競技場の財源



平和の俳句 戦後70年

障害のわたしの体が戦争だ

本間 美智子(72) 東京都町田市

「へいとうせいこう」東京大空襲で作者は無医村に疎開し、脊椎カリエスによる障害者となったという。戦後

もその体をもって生きていくのだ。重い言葉。

2015.6.30

(森本智之)